

ひまわり



令和3年12月6日(月)

祈りの効用



村上和雄さん【むらかみ かずお(1936-2021)・分子生物学者・筑波大学名誉教授】と
棚次正和さん【たなつぐ まさかず(1949-)・宗教学者・京都府立医科大学教授】の共著に
『人は何のために「祈る」のか 一生命の遺伝子はその声を聴
いているー』があります。

「はじめに」を村上さんが書いているのですが、「祈り」に
ついて、いくつかの興味深いことが示されています。

(アメリカでの医療研究に関わり)「…私が注目しているのは、新しい分野
で、祈りの治療効果が明らかになり出したことです。ハーバード大学、コロン
ビア大学などの権威ある大学が、競ってこの研究に乗り出しています。…そし
て、「精神神経免疫学」という新しい分野も開かれました。人類が古来続けて
きた「祈り」が最先端の研究分野になりつつあるのです。」

そして、「祈り」と「医療」について、次のような実験が示されていました。
「心臓病患者393人による実験で、他人から祈られた患者は、そうでない患
者やよりも人工呼吸器、抗生物質、透析の使用率が少ないということが分かり
ました。しかも、西海岸にあるこの病院に近いグループからの祈りも、遠く離
れた東海岸側からの祈りも、同様の効果がありました。そして、これらの患者
は祈られていることすら知らなかったのです。」

にわかに信じられない内容ですが、実験結果として存在していることは間違
いありません。ただ、「祈り」と「病気の治療成績」の因果関係は証明でき
ていません。あくまでも統計的なデータとなります。

人はややもすれば、自分の利益だけを考えて祈ることがあります。例えば、
「宝くじが当たりますように」、「入試に合格しますように」などです。

しかし、人のために祈ることができれば、それはとても尊いことではないで
しょうか。誰かが病める時は、早く良くなるように祈りを捧げる。入試では、
自分も友達も合格するように祈りを捧げる。新型コロナについては、コロナ禍
が過ぎ去るように祈りを捧げる。人として、このような生き方をしたいもので
すね。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開して
います。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

【東住吉中学校】で検索



QR code

東住吉中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j742691>